

成果指標と目標値の設定理由

めざす姿		成果指標		算出方法等	現状値	現状値の 時点	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由
1-1-1	一人ひとりに健康づくりが定着し、元気で暮らしている	自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合		市政世論調査で測定	52.1%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。
		高齢の方が地域で生き生きと活動していると思う市民の割合		市政世論調査で測定	43.7%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。
		健康寿命 (平均自立期間)と平均寿命の差	男	65歳の平均寿命－65歳の平均自立期間(介護保険の要介護1まで)	1.80年	令和2年12月	縮小	継続的な縮小を目指す。
			女		3.67年	令和2年12月	縮小	
		介護予防セミナー受講者数		介護予防にかかる各種講座の受講者数	1,187人	令和6年3月	1,270人	総合計画の人口推計における令和5年度から11年度の高齢者人口の伸び率が約7%であることを踏まえ、目標年次には、現状値から7%程度増加していることを目標とした。
シルバー人材センター会員数		年度末会員数	924人	令和6年3月	981人	現状値を基準に、毎年度、前年度から1%程度増加させることを目標とした。		
1-1-2	心身の健康を維持・増進するための体制が整っている	心身の健康の維持・増進をサポートする環境が整っていると思う市民の割合		市政世論調査で測定	32.4%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。
		肺がん検診受診率		肺がん検診受診者数／職域等で受診していない40歳以上の対象者×100	25.6%	令和6年3月	27.4%	令和元年度と5年度の実績値を比較すると1.3ポイントの増加であり、今後も同程度の推移となるよう、現状値を基準に、毎年度、前年度から0.3ポイント増加させることを目標とした。
		特定健康診査の受診率		40歳以上の大和市国民健康保険加入者が、特定健康診査を受診した割合（法定報告値）	31.0%	令和6年11月	40.0%	第3期大和市国民健康保険データヘルス計画において定める目標値（令和11年度において40.0%）と同一とした。
		肺炎等による死亡率（人口10万人あたりの死亡者数）		肺炎及びその他の呼吸器系の疾患による死亡者数／人口（10月1日現在）×100,000	101.2人	令和6年3月	95.2人	平成30年度から令和5年度における実績値の推移の平均は0.8人の減少であることを踏まえ、現状値を基準に、毎年度、前年度から1人減少させることを目標とした。
		自殺死亡率（人口10万人あたりの自殺者数）		自殺者数／人口（10月1日現在）×100,000（人口動態統計による自殺者数）	13.2人	令和5年12月	毎年13.6人	毎年、令和元年から5年の実績の平均値（16.0人）より15%少なくすることを目標とした。
1-2-1	市民がいざというときに診療を受けられる体制が整っている	いざというときの診療体制が整っていると思う市民の割合	市政世論調査で測定	43.0%	令和6年9月	向上	継続的な向上を目指す。	

めざす姿		成果指標	算出方法等	現状値	現状値の 時点	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由
1-2-1	市民がいざというときに診療を受けられる体制が整っている	休日夜間急患診療所（一次救急）の年間患者取扱件数	休日や夜間に受け入れた、内科や小児科の軽症患者の年間受診者数	11,536件	令和6年 3月	毎年度 13,000件	コロナ禍の影響のない時期と同等の取扱件数（13,000件程度）に対応できる体制を維持することを目標とした。
		二次救急での中度・重度患者の割合	中度・重度患者数 / 総受診者数	23.5%	令和6年 3月	27.1%	現状値を基準に、毎年度、0.6ポイント増加させることを目標とした。
1-2-2	市立病院が地域の基幹病院としての役割を果たしている	地域の診療所等から市立病院に紹介された患者の割合（紹介率）	紹介患者数 / （初診患者数－救急搬送患者数－休日・夜間受診患者数）×100	78.8%	令和6年 3月	80.0%	目標年次には、80.0%に達することを目標とした。
		市立病院から地域の診療所等に紹介した患者の割合（逆紹介率）	逆紹介患者数 / （初診患者数－救急搬送患者数－休日・夜間受診患者数）×100	79.2%	令和6年 3月	80.0%	目標年次には、80.0%に達することを目標とした。
		患者満足度調査における満足度の割合	外来患者、入院患者に対する満足度調査で測定	83.6%	令和5年 9月	90.0%	目標年次には、90.0%に達することを目標とした。
		がん患者受入数（延べ）	延べがん患者受入数	36,381人	令和6年 3月	39,546人	神奈川県地域医療構想における大和市を含む県央2次保健医療圏のがん患者数について、2010年から2030年の20年間で1.32倍増加する見込みであることにより、現状値を基準に、毎年度、同程度の増加（前年度比1.014倍）に対応できる体制とすることを目標とした。
		市立病院における救急車受入件数	救急車の受入件数	4,871件	令和6年 3月	5,669件	大和市立病院経営計画において2021年度の実績3,592件に対し、2027年度の目標値を4,388件としていること（6年間で796件の増加）より、現状値を基準に、毎年度、同程度の増加（133件）に対応できる体制とすることを目標とした。
1-3-1	スポーツに関わる人が増えている	スポーツ活動（する、みる、ささえる）に親しんでいる市民の割合	市政世論調査で測定	38.0%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		市民1人あたりの公共スポーツ施設年間利用回数	市が設置するスポーツ施設の延べ利用者数 / 総人口	4.98回	令和6年 3月	5.29回	現状値を基準に、毎年度、前年度から1%程度増加させることを目標とした。
		年1回以上直接会場でスポーツを観戦した市民の割合	スポーツ推進計画アンケート調査で測定	21.6%	令和5年 11月	37.3%	第2期スポーツ推進計画において定める目標（2023年度に37.3%）を達成していないことを踏まえ、目標年次には37.3%に達することを目標とした。
		スポーツに関わるボランティア活動を経験したことがある市民の割合	スポーツ推進計画アンケート調査で測定	11.2%	令和5年 11月	19.9%	第2期スポーツ推進計画において定める目標（2023年度に19.9%）を達成していないことを踏まえ、目標年次には19.9%に達することを目標とした。
		女子サッカーイベント参加者数	女子サッカー関連イベントの参加者数	7,511人	令和6年 3月	9,360人	第2期スポーツ推進計画において定める目標（2023年度に9,360人）を達成していないことを踏まえ、目標年次には9,360人に達することを目標とした。

めざす姿		成果指標	算出方法等	現状値	現状値の 時点	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由
1-3-1	スポーツに 関わる人が 増えている	総合型地域スポーツ クラブを知っている市 民の割合	スポーツ推進計画アン ケート調査で測定	14.0%	令和5年 11月	18.3%	第2期スポーツ推進計画におい て1年度あたり0.85ポイントの 増加を目指していることを踏まえ、 現状値を基準に、毎年度、前年 度から0.85ポイント増加させるこ とを目標とした。 ※目標年次におけるスポーツ推進計画アン ケート調査は4月に実施予定であり、現状値 の時点から5年5か月後となるため、目標値 は現状値から5年後の値として算定した。
1-4-1	学びに 携わる人が 増えている	生涯学習活動を行っ ている市民の割合	市政世論調査で測定	25.0%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		市民1人あたりの 年間図書貸出冊数	貸出冊数 / 総人口	5.51冊	令和6年 3月	5.96冊	紙書籍の貸出冊数について、令 和5年度から目標年次の来館者 数の伸び率分の増加を目指すこ と（目標年次において来館者数 4,000,000人を目標とする。）、 及び、電子書籍の貸出冊数につ いて、令和5年度の実績値から 市内小中学生数と同程度の増加 を目指すこと（目標年次において 市内小中学生全員への1回以上 の貸出を目標とする。）から、目 標年次には、現状値から0.45冊 増加していることを目標とした。
		学習団体の登録数	学習センターで活動して いる学習団体の登録数	1,552団 体	令和6年 3月	1,631 団体	目標年次には、5年間（計画期 間相当）で1年度あたり1%の増 加とする増加率でもって現状値を 基準に算出した値（1,631団体） に達することを目標とした。
1-5-1	文化や芸術に 親しむ人が 増えている	文化や芸術活動に 親しんでいる市民の 割合	市政世論調査で測定	27.7%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		芸術文化ホール 年間利用者数	芸術文化ホール（メイン ホール・サブホール・ ギャラリー・練習室）利 用者数	209,782 人	令和6年 3月	306,000 人	目標年次には、平成28年の芸 術文化ホールの利用開始から令 和5年度までの実績値の最大値 （306,018人）と同程度の利用 者数（306,000人）に達するこ とを目標とした。
		YAMATO ART100 参加イベント数	YAMATO ART100 と して採用した文化芸術 イベント数	128 イベント	令和6年 3月	毎年度 100 イベント	対象期間中に100以上の文化芸 術イベントの開催を目指してい ることを踏まえた目標とした。
1-5-2	郷土の文化が しっかりと 引き継がれて いる	大和の歴史や文化財 は、しっかりと継承され ていると思う市民の 割合	市政世論調査で測定	17.7%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		歴史文化施設の 利用者数	郷土民家園+つる舞の 里歴史資料館+下鶴間 ふるさと館利用者（入 園・入館者）数	37,025 人	令和6年 3月	50,280 人	目標年次には、令和元年度か ら5年度までの実績値の最大値 （50,280人）と同程度の利用者 数に達することを目標とした。
2-1-1	すべての こどもが 大切にされ、 すくすくと 健康に育って いる	こどもが健康に育っ ていると思う市民の 割合	市政世論調査で測定	49.1%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		妊婦健康診査の 平均受診回数	妊婦健康診査補助券使 用枚数（妊婦健康診査 受診数とみなす） / 妊婦健康診査補助券 交付数（妊婦健康診査 対象者数とみなす） ×14回	11.3回	令和6年 3月	毎年度 14回	国が定める目標値と同一とした。

めざす姿		成果指標	算出方法等	現状値	現状値の 時点	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由
2-1-1	すべての こどもが 大切にされ、 すくすくと 健康に育っ ている	4か月児健康診査の 受診率	4か月児健康診査を受 診した子どもの数 / 同健康診査対象児数 ×100	98.6%	令和6年 3月	毎年度 98.0%	毎年度、入院等やむを得ない事 情により受診できない対象児を 2% 程度と見込み、その他全員 が受診することを目標とした。
		3歳6か月児健康診 査の受診率	3歳6か月児健康診査 を受診した子どもの数 / 同健康診査対象児数 ×100	97.9%	令和6年 3月	毎年度 98.0%	毎年度、入院等やむを得ない事 情により受診できない対象児を 2% 程度と見込み、その他全員 が受診することを目標とした。
		児童支援利用計画 (障害児相談支援) 実利用者数	児童支援利用計画(障 害児相談支援)を利用 した児童の数	1,299人	令和6年 3月	1,767人	令和元年度から5年度における 実績値の推移の平均が約78人 の増加であることを踏まえ、現状 値を基準に、毎年度、前年度から 同程度(78人)の増加に対応でき る体制とすることを目標とした。
		3歳6か月児健康診 査で4本以上のむし 歯を有する者の割合	3歳6か月児健康診査 でむし歯が4本以上あっ た子どもの数 / 同健康診査を受診した 子どもの数 ×100	1.65%	令和6年 3月	0%	神奈川県歯及び口腔の健康づく り推進計画(第2次)において、 3歳児で4本以上のむし歯を有す る者の割合の目標値が0% であ ることを踏まえ、目標年次に0% となることを目標とした。
		虐待相談受付件数	対応及び防止のために 受けた児童虐待に関す る相談件数(新規及び 再開)	220件	令和6年 3月	毎年度 235件	令和元年度から5年度の実績値 の平均は235件であること踏ま え、同程度の件数に対応できる 体制を維持することを目標とした。
2-1-2	安心して こどもを 生み育てる ことができ ている	こどもを望んだ時から 子育て期間にかけて 必要な支援を受けら れると思う市民の 割合	市政世論調査で測定	30.4%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		妊娠届出時に専任保 健師による個別面接 (相談)を受けた市民 の割合	子育て何でも相談応援 センターの保健師が受 理した妊娠届出書の数 / 妊娠届出書の提出総 数	100%	令和6年 3月	毎年度 100%	毎年度、対象者全員が個別面接 (相談)を受けることを目指す。
		つどいの広場開設日 1日あたりの平均利 用者数	(市内「こども一」に おける年間利用児童数 +保護者数) / 開設日数	67.7人	令和6年 3月	90.7人	現状値を基準に、毎年度、前年 度から5% 程度増加させることを 目標とした。
		保育所等の 待機児童数 (各年4月1日)	2017年度に厚生労働 省が変更した新たな定 義に基づく保育所等の 待機児童数	0人	令和6年 4月	毎年度 0人	毎年度、待機児童を発生させない ことを目指す。
		放課後児童クラブに 入会を希望する児童 のうち、入会できた 児童の割合 (各年5月1日)	放課後児童クラブ 入会児童数 / 入会希望者数 ×100	99.8%	令和6年 5月	毎年度 100%	毎年度、入会を希望する児童全 員が入会できることを目指す。
		保育施設に対し、 巡回訪問支援等を実 施した施設の割合 (年度ごと)	訪問を実施した保育 施設数 / 市内保育施設総数	97.3%	令和6年 3月	毎年度 100%	毎年度、全ての保育施設に訪問 することを目指す。
2-1-3	こども・若者 の視点に 立った居場所 がある	こども・若者が安心 して過ごせる場所や しくみが整っている と思う市民の割合	市政世論調査で測定	31.3%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		こども食堂の数 (こども食堂マップに 掲載するこども食堂 の数)	こども食堂マップに掲載 するこども食堂の数の 数	8箇所	令和6年 5月	13箇所	現状値を基準に、毎年度、前年 度から1箇所増やすことを目標と した。

めざす姿		成果指標		算出方法等	現状値	現状値の時点	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由
2-2-1	多様性を認め、 つながり合い、 高め合っている	児童生徒が互いの良さを生かし認め合い大切にしながら学校生活を送っていると思う市民の割合		市政世論調査で測定	23.6%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた児童生徒の割合		全国学力学習状況調査(対象は小6及び中3)で測定	96.1%	令和6年 4月	100%	目標年次には、全ての回答者がいじめはどんな理由があってもいけないことだと思うと回答することを目標とした。
		特別支援教育センターで扱った特別支援や発達に関する保護者や学校からの延べ相談件数		電話・窓口相談受付件数	436件	令和6年 3月	496件	現状値を基準に、毎年度、前年度から10件の増加に対応できる体制とすることを目標とした。
2-2-2	確かな学力と健康な心身が育まれている	児童生徒の個性や能力にあった教育が行われていると思う市民の割合		市政世論調査で測定	18.5%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		学校生活を通して、児童生徒の健康な心身が育まれていると思う市民の割合		市政世論調査で測定	24.7%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と答えた児童生徒の割合	小6	全国学力学習状況調査で測定	86.7%	令和6年 4月	93.4%	目標年次には、現状値の時点で学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると答えていない児童の割合(13.3%)を半減させることを目標とした。
		「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と答えた児童生徒の割合	中3	全国学力学習状況調査で測定	87.7%	令和6年 4月	93.9%	目標年次には、現状値の時点で学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると答えていない生徒の割合(12.3%)を半減させることを目標とした。
		「ノートや教科書、本などと同じようにPCを活用している」と答えた児童生徒の割合	小	小学生を対象としたアンケート調査で測定	89.0%	令和6年 3月	95.0%	目標年次には、学習用端末を適切に活用できる児童が95%に達することを目標とした。
			中	中学生を対象としたアンケート調査で測定	82.0%	令和6年 3月	90.0%	目標年次には、学習用端末を適切に活用できる生徒が90%に達することを目標とした。
		「自分には良いところがあると思う」と答えた児童生徒の割合		全国学力学習状況調査(対象は小6及び中3)で測定	84.8%	令和6年 4月	92.4%	目標年次には、現状値の時点で自分には良いところがあると思うと答えていない児童生徒の割合(15.2%)を半減させることを目標とした。
		「運動やスポーツは大切だと考える」と答えた児童生徒の割合		全国体力・運動能力、運動習慣調査(対象は小5及び中2)で測定	93.2%	令和6年 5～7月	96.6%	目標年次には、現状値の時点で運動やスポーツは大切だと考えると答えていない児童生徒の割合(6.8%)を半減させることを目標とした。
		学校内外の機関等で専門的な相談・指導等を受けた不登校児童生徒の割合	小	市内各学校に対して行った不登校児童に関する調査で測定	70.9%	令和6年 3月	82.9%	現状値を基準に、毎年度、前年度から2ポイント増加させることを目標とした。
			中	市内各学校に対して行った不登校生徒に関する調査で測定	57.6%	令和6年 3月	72.6%	現状値を基準に、毎年度、前年度から2.5ポイント増加させることを目標とした。

めざす姿		成果指標	算出方法等	現状値	現状値の 時点	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由
3-1-1	地域の中で 共に助け合っ て生活できて いる	地域で共に助け合っ て生活していると思う 市民の割合	市政世論調査で測定	28.5%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		民生委員・児童委員 充足率	民生委員児童委員の委 嘱数 / 民生委員児童委員の 定数	93.1%	令和6年 3月	毎年度 100%	毎年度、民生委員・児童委員の 定数を満たすことを目指す。
		協議体の設置数 (累計)	第2層協議体の 設置数	6箇所	令和6年 3月	12箇所	現状値を基準に、毎年度、前年 度から1箇所増加させることを目 標とした。
3-2-1	高齢の方や その家族が 安心して暮 らしている	介護を必要とする人 が地域で安心して暮 らしていると思う市民 の割合	市政世論調査で測定	20.7%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		介護サービス利用者の 満足度の割合	大和市高齢者保健福祉 計画・介護保険事業計 画策定のための実態調 査で測定	67.7%	令和5年 1月	71.2%	現状値を基準に、毎年度、前年 度から0.5ポイント増加させるこ とを目標とした。
		終活登録制度の新規 登録者数	1年間の新規登録者数 (年度ごと)	8人	令和6年 3月	24人	現状値を基準に、毎年度、前年 度から20% 増やすことを目標と した。
		認知症サポーター となっている市民の 割合	認知症サポーター養成 講座受講済数 / 総人口 ×100	10.0%	令和6年 3月	17.0%	認知症サポーター養成講座受講 済人数について、令和5年度実 績値 (24,443人) を基準に、毎 年度、新規サポーターを3,000人 程度増加させることを目標とした。
3-3-1	障がいの ある方が 地域の中で 自立した生活 を送っている	障がいのある方が地 域で自立した生活を 送っていると思う市民 の割合	市政世論調査で測定	14.0%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		施設入所者の地域生 活移行者数 (累計)	福祉施設から、自宅や グループホームなどの 生活へと移行した人 の累計	2人 (令和4年 度からの 累計)	令和6年 11月	17人	第7期障がい福祉計画で定めた 令和8年度末時点での施設入所 者数 (134人) 及び令和8年度 末時点での移行者数目標値 (令 和5年度から8年度までで9人) に加え、国の指針で示す移行率(令 和8年度末時点において、令和4 年度末時点の施設入所者の6% 以上)を踏まえ、令和8年度末時 点での目標値を9人とし、その後、 令和11年度までの3年間での移 行率を6%とする目標とした。
		一般就労への 移行者数	福祉施設で、一般就労 に結び付いた人数	50人	令和6年 3月	78人	第7期障がい福祉計画において 定める目標 (令和8年度に78人) を達成していないことを踏まえ、 目標年次には78人に達すること を目標とした。
3-4-1	社会保障の しくみが 安定的に維持 され、効果的 に活用されて いる	国民健康保険制度に おける1人あたりの医 療費の伸び率 (対前年度)	大和市国民健康保険加 入者1人あたりの医療 費の対前年度伸び率	3.4%	令和6年 3月	1.8%	目標年次には、令和元年度から 5年度までの平均値 (2.1%) から 0.3ポイント減少していることを 目標とした。
		保護受給世帯のうち、 その他世帯 (働く世 帯を含む) の割合	その他世帯 (働く世帯 を含む) 数 / 保護受給世帯総数 ×100	11.3%	令和6年 3月	毎年度 11.0%	令和元年度から5年度の実績値 の平均は約11% であること踏ま え、毎年度、同程度 (11.0%) の 割合を超えないことを目標とした。
		生活困窮自立支援の 利用者のうち就労・ 増収した人の割合	当該年度中の住居確保 給付金受給者のうち、 就労、増収した人の 割合	25.0%	令和6年 3月	毎年度 25.0%	毎年度、現状値 (25.0%) に達 することを目標とした。

めざす姿		成果指標	算出方法等	現状値	現状値の 時点	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由
4-1-1	地域活動に関わる人が 増えている	地域活動に参加している市民の割合	市政世論調査で測定	13.8%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		自治会への加入世帯 割合	自治会加入世帯 / 総世帯数 ×100	55.8%	令和6年 10月	毎年度 55.8%	毎年度、現状値と同程度の割合 (55.8%) を維持することを目標 とした。
		コミュニティセンター 1館あたりの年間平均 利用者数	全20館（1ヶ月以上休 館した施設を除く）の年 間平均利用者数	9,522人	令和6年 3月	18,162人	令和3年度から5年度における 実績値の推移の平均は約1,440 人の増加であること踏まえ、現状 値を基準に、毎年度、前年度か ら1,440人増加させることを目標 とした。
		持続可能な地域コ ミュニティづくりに向 けた支援件数	持続可能な地域コミュ ニティづくりに向けた支援 件数	20件	令和6年 3月	60件	目標年次には、現状値から40件 増加していることを目標とした。
4-2-1	公共を担う 市民や事業者 が増えている	ボランティア活動や NPO の活動などの 非営利かつ自主的な 活動をしている市民 の割合	市政世論調査で測定	9.9%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		協働事業の件数	協働事業の実施数	12件	令和6年 4月	17件	現状値を基準に、毎年度、前年 度から1件増加させることを目標 とした。
		市民活動センター 利用登録団体数	市民活動センター利用 登録団体の数	142団体	令和6年 3月	172団体	現状値を基準に、毎年度、前年 度から5団体増加させることを目 標とした。
		「出張!ボランティア 総合案内所」の 来場者数	ボランティアに関する情 報の提供をしている 「出張! ボランティア総 合案内所」の来場者数	207人	令和6年 3月	277人	現状値を基準に、毎年度、前年 度から5% 程度増加させることを 目標とした。
		やまとボランティア総 合案内所登録者数	やまとボランティア総合 案内所登録者の数	448人	令和6年 3月	508人	現状値を基準に、毎年度、前年 度から10人増加させることを目 標とした。
4-3-1	あらゆる 差別がなく すべての人が 互いの人権を 尊重し合っ ている	地域に差別意識がなく、お互いの人権が 尊重されていると思う 市民の割合	市政世論調査で測定	28.6%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		人権意識啓発に おけるイベントの 来場者数	人権啓発イベント（人権 擁護委員の日、人権週 間）での啓発物品の配 布数で測定	575人	令和6年 3月	毎年度 600人	毎年度、令和5年度までの実績 における最大値と同程度の来場 者数（600人）に達することを目 標とした。
4-3-2	男女共同参画 が実感でき ている	男女がいろいろな取 組みに平等に参加 していると思う市民 の割合	市政世論調査で測定	24.4%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		審議会、委員会など における女性委員の 割合	女性委員数 / 全委員数 ×100	29.5%	令和6年 4月	40.0%	国の第5次男女共同参画基本計 画において定める成果目標を踏ま え、目標年次に40% に達するこ とを目標とした。
4-4-1	地域の中で 多文化共生が 行われている	国籍に関わらず、住 民同士が交流・協力 していると思う市民 の割合	市政世論調査で測定	23.8%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		外国人を支援するボ ランティア登録者数	事業、通訳翻訳、クロ スカルチャーセミナー、 日本語・学習支援のボ ランティア登録者数	409人	令和6年 3月	毎年度 400人	毎年度、現状値と同程度の登録 者数（400人）に達することを目 標とした。

めざす姿		成果指標	算出方法等	現状値	現状値の 時点	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由
4-5-1	平和の尊さが 実感できて いる	平和の尊さを実感で きる機会や取り組み があると思う市民の 割合	市政世論調査で測定	13.4%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		語り部を派遣した市 内小中学校及び高校 の校数	語り部を派遣した 学校数	6校	令和6年 3月	毎年度 10校	毎年度、校数が10校に達するこ とを目標とした。
		平和意識の普及、啓 発事業への参加者数	平和都市推進事業（パ ネル展、戦争体験を聞 く会、平和メイン事業） への参加者数	902人	令和6年 3月	毎年度 1,000人	毎年度、参加者数が1,000人に 達することを目標とした。
5-1-1	商店街や 企業が 持続可能性を 踏まえながら 活発に活動 している	大和市の商店街や企 業は活気やにぎわい があると思う市民の 割合	市政世論調査で測定	24.1%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		市内商業者が商店会 等に参加している 割合	商店街団体の加入事業 者数 / 市内商業者数（小売 業+卸売業） ×100	60.6%	令和6年 3月	毎年度 60.0%	毎年度、現状値と同程度の割合 (60.0%) に達することを目標と した。
		やまと起業家支援ス ペース「Rigel」の 稼働率	入居区画数 / 全区画数 ×100	100%	令和6年 3月	毎年度 100%	毎年度、全ての区画が利用され ることを目指す。
		やまと起業サポートセ ミナー募集定員に対 する申込者数の割合	全申込者数 / 合計募集定員数 ×100	100%	令和6年 3月	毎年度 100%	毎年度、申込者数が募集定員に 達することを目指す。
		大和市企業活動振 興条例に基づく奨励 金事業計画認定件数 (累計)	新規立地奨励金、事業 拡大奨励金及び設備投 資奨励金における事業 計画認定件数	41件	令和6年 3月	77件	制度開始時点（平成30年度）か ら令和5年度の実績値の平均は 6件であること踏まえ、現状値を 基準に、毎年度、前年度から6 件増加させることを目標とした。
5-1-2	生き生きと 働くことが できている	大和市のお店や企業 で働いている人は生 き生きとしていると思 う市民の割合	市政世論調査で測定	24.2%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		就労支援に係る各種 セミナーの募集定員 に対する参加者数の 割合	全参加者数 / 合計募集定員数 ×100	72.0%	令和6年 3月	毎年度 77.5%	令和4年度及び5年度の実績 値の平均は77.5% であること 踏まえ、毎年度、同程度の割合 (77.5%) に達することを目標と した。
		健康経営による産業 表彰数（累計）	健康経営による産業表 彰を受けた企業の件数	14事業者	令和6年 3月	26事業者	現状値を基準に、毎年度、前年 度から2事業者増加させることを 目標とした。
5-2-1	都市農業が 営まれ、 地域農産物が 安定的に消費 されている	市内産の農産物を 買うことのできる場所 やイベントが充実してい ると思う市民の割合	市政世論調査で測定	23.3%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		農地の利用権設定 面積	利用権設定（貸借）面積 （農用地利用集積計画 及び農用地利用集積等 促進計画に基づく）	9.6ha	令和6年 3月	毎年度 10ha	毎年度、現状値と同程度の面積 (10ha) に達することを目標とし た。
		援農サポーターの 登録者数	援農サポーターの 登録者数	68人	令和6年 3月	毎年度 55人	毎年度、大和市都市農業振興基 本計画に定めた目標値（2028 年度に55人）に達することを目 標とした。
		市民農園区画数	市民農園（民間含む） の区画数	1,114 区画	令和6年 3月	毎年度 1,100 区画	毎年度、現状値と同程度の区画数 (1,100区画) に達することを目 標とした。

めざす姿		成果指標	算出方法等	現状値	現状値の 時点	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由
5-2-1	都市農業が 営まれ、 地域農産物が 安定的に消費 されている	市民農園の利用され ている区画の割合	市民農園（市営）の 利用区画割合	91.9%	令和6年 3月	毎年度 100%	毎年度、全ての区画が利用され ることを目指す。
		朝霧市、夕やけ市、 おさんぽマートの開催 1回あたりの来場者数	各直売会の総来場者数 ／開催回数	71人	令和6年 3月	毎年度 80人	令和4～5年度の実績の平均値 は約80人であることを踏まえ、 毎年度、同程度の来場者数（80 人）に達することを目標とした。
5-3-1	エンターテイン メントがあふれ、 まちへの 関心も 高まっている	市内外から人々が集 まり楽しめる、魅力的 なイベントが多いと思 う市民の割合	市政世論調査で測定	27.1%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		観光イベントの 総来場者数	各イベントの年間来場 者数（主催者発表）の 合計（1月～12月）	680,763 人	令和5年 12月	1,120,000 人	目標年次において、コロナ禍前の 令和元年の実績1,118,573人と 同程度（1,120,000人）に達する ことを目標とした。
		観光施設等の 総来場者数	各施設来場者数の合計 （1月～12月）	763,742 人	令和5年 12月	848,000 人	目標年次において、コロナ禍前の 令和元年の実績848,287人と同 程度（848,000人）に達すること を目標とした。
		フィルムコミッション で対応した撮影件数	フィルムコミッションによ る撮影件数（市及び民 間施設を含む）	47件	令和6年 3月	62件	目標年次には、平成27年度から 令和5年度の実績の最大値（62 件）に達することを目標とした。
6-1-1	災害に対して 自ら備えを している	災害に対して備えて いる市民の割合	市政世論調査で測定	28.2%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		地域防災訓練を実施 している自治会の 割合	地域防災訓練を実施し ている単位自治会数 ／全単位自治会数 ×100	53.0%	令和6年 3月	83.0%	現状値を基準に、毎年度、前年 度から5ポイント増加させること を目標とした。
		防災講話の 受講団体数	市が実施する防災講話 を受講した団体数	26団体	令和6年 3月	44団体	現状値を基準に、毎年度、前年 度から3団体増加させることを目 標とした。
		避難行動要支援者名 簿をもとに、支援体 制づくりの取り組みを 行っている自治会の 割合	避難行動要支援者支援 制度に関するアンケート 調査で測定	43.2%	令和6年 3月	100%	目標年次には、全ての自治会が 取り組みを行っていることを目指 す。
		住宅の耐震化率	耐震性のある住宅戸数 ／住宅全戸数 ×100	96.1%	令和6年 3月	98.2% 以上	目標年次には、大和市耐震改修 促進計画における目標値（令和 10年度で98.2%）以上に達する ことを目標とした。
6-1-2	防災・減災の しくみが 整っている	災害による被害を軽 減するための取り組 みが充実していると思 う市民の割合	市政世論調査で測定	18.8%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		想定避難者数に応じ た非常食料の備蓄率	都心南部直下地震に対 して想定している非常 食料の備蓄率	100%	令和6年 4月	毎年度 100%	毎年度、想定避難者数に応じた 非常食料が備蓄されていることを 目指す。
		LINE お知らせで防災 情報の受信設定をし ている市民の数	LINE お知らせで防災情 報の受信設定をしてい る人数	25,237 人	令和6年 3月	31,900人	現状値を基準に、毎年度、前年 度から1,100人程度増加させる ことを目標とした。
6-1-3	都市の 防災機能が 充実している	雨水整備率	公共下水道による浸水 対策整備済区域面積 ／事業認可区域面積 ×100	69.8%	令和6年 3月	毎年度 70.0%	現状値と同程度のペース（整備 率70%）で整備を進めることを 目標とした。
6-2-1	犯罪が 起きにくい 環境で 暮らしている	治安が良いと思う市 民の割合	市政世論調査で測定	45.1%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。

めざす姿		成果指標	算出方法等	現状値	現状値の 時点	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由
6-2-1	犯罪が 起きにくい 環境で 暮らしている	年間刑法犯認知 (発生) 件数	市内の刑法犯認知 (発生) 件数 (1月～12月)	1,790件	令和5年 12月	1,250件	目標年次には、現状値から30% 程度減少していることを目標とし た。
		年間特殊詐欺(発生) 件数	市内の刑法犯認知 (発生) 件数(1月～ 12月)のうち、 特殊詐欺発生件数	55件	令和5年 12月	49件	目標年次には、現状値から10% 程度減少していることを目標とし た。
6-2-2	安心して 消費生活を送っている	安心して消費生活を送っている市民の割合	市政世論調査で測定	57.4%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		消費生活相談件数のうち、解決済みの割合	消費生活相談の件数 (総相談件数－斡旋不調－継続件数) / 総相談件数 ×100	98.1%	令和6年 3月	毎年度 100%	毎年度、消費生活相談に係る全 ての案件を解決することを目指 す。
		消費生活センターの 役割や業務内容につ いて知っている市民 の割合	e-モニターで測定	56.0%	令和6年 3月	74.0%	現状値を基準に、毎年度、前年 度から3ポイント増加させること を目標とした。
6-2-3	交通事故が 起きにくい 環境で 暮らしている	交通事故の不安がなく暮らしている市民の割合	市政世論調査で測定	39.9%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		交通人身事故発生 件数	市内の交通事故の年間 発生件数(1月～12月)	661件	令和5年 12月	561件	目標年次には、現状値の85%以 下まで減少していることを目標と した。
		交通安全教室等参加 者数(イベントを除く)	イベントなどを除いた交 通安全教室等の参加者 数	15,572人	令和6年 3月	16,351人	目標年次には、現状値から5% 以上増加していることを目標とし た。
		自転車の適正通行率	車道の左側を通行する 自転車の台数 / 自転車通行台数 ×100 (調査実施場所：中央林 間駅周辺、大和駅周辺)	67.5%	令和6年 3月	72.5%	目標年次には、現状値から5ポ イント増加していることを目標とし た。
6-2-4	十分な消防力 が整っている	大和市では、消防・ 救急・救助体制が 整っていると思う市民 の割合	市政世論調査で測定	49.7%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		火災発生率 (人口1万人あたりの 火災発生件数)	火災発生件数(1～12月) / 人口 ×10,000	2.0件	令和5年 12月	毎年 0件	毎年、火災が発生しないことを目 指す。
		救命講習受講者資格 取得者数(累計)	救命講習終了者数	49,359 人	令和6年 3月	57,159人	現状値を基準に、毎年度、前年 度から1,300人増加させることを 目標とした。
		救急車の医療機関到 着までの所要時間	覚知から傷病者を医療 機関等に収容するまで に要した所要時間の合 計 / 医療機関等搬送件数 (年度)	38.5分	令和6年 3月	38.5分	現状値を維持することを目指 した。
6-3-1	厚木基地の 騒音対策や 安全対策が 進んでいる	時間帯補正等価騒音 レベル(Lden)	夕方及び夜間の騒音 に対しては重みづけを 行ったうえで評価した1 日の等価騒音レベルに 対し、全測定日のパワー 平均を算出したもの	60.4	令和6年 3月	通減	継続的な通減を目指す。

めざす姿		成果指標		算出方法等	現状値	現状値の 時点	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由
7-1-1	脱炭素社会の 実現に貢献 している	省エネに取り組んで いる市民の割合		市政世論調査で測定	44.1%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		温室効果ガス排出量 の削減率 (2013年度比)		(1-当該年度温室効果 ガス排出量 /2013年度温室効果ガ ス排出量) ×100	26.2%	令和4年 3月	43.8%	大和市地球温暖化対策実行計画 において定める2030年度の目 標値46%を達成できるよう、毎 年度、現状値から2.2ポイント増 加させることを目標とした。
7-1-2	清潔なまちが 維持されると ともに、 循環型社会が 実現されて いる	ごみの分別をしてい る市民の割合		市政世論調査で測定	88.9%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		散乱ごみが少なく、 きれいだと思う市民 の割合		市政世論調査で測定	61.9%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		市民一人1日あたりの ごみ排出量		1年間の家庭系ごみ 発生量(ごみ) /総人口(各年10月1 日,推計人口) /365日(366日)	405g	令和6年 3月	400g	大和市一般廃棄物処理基本計画 において、平成37(令和7)年 度には平成26年度の実績値から 10g削減することを目標としてお り、同程度の推移(1年間で約 0.9g削減)となるよう、現状値 を基準に、目標年次には5g減少 していることを目標とした。
		リサイクル率		実際に資源化された量 /廃棄物の総排出量 ×100	28.4%	令和6年 3月	29.6%	令和5年度までの実績値に基づ き、大和市一般廃棄物処理基本 計画における推計手法により求め た目標年次における推計値を目 標とした。
		美化推進月間 ごみ回収量		毎年11月の大和市美 化推進月間のごみ回収 量	5.83t	令和6年 3月	5.54t	目標年次には、現状値から5% 程度減少していることを目標とし た。
7-1-3	緑地が 保全されると ともに、 市街地の緑化 も進んでいる	緑が多いと思う 市民の割合		市政世論調査で測定	59.1%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		保全を図っている 緑地面積		大和市と賃貸借契約な どで保全を図っている 緑地面積+行政で所有 している緑地面積	84.5ha	令和6年 3月	84.5ha	現状値を維持することを目標とし た。
7-1-4	深呼吸 したくなる 空気や、 きれいな水に 囲まれて 生活している	川などの水や大気の 状態が良好だと思う 市民の割合		市政世論調査で測定	38.4%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		河川の水質 の基準とされ ている生物 化学的酸素 要求量(BO D)	境川	境川及び引地川の BOD平均値	1.4mg/l	令和6年 3月	毎年度 3.0mg/l 以下	大和市環境基本計画に定める目 標値(2027年度に向けた数値目 標として境川は3.0mg/l以下、 引地川は2.0mg/l以下と設定) を、毎年度、達成することを目標 とした。
			引地川		1.1mg/l	令和6年 3月	毎年度 2.0mg/l 以下	
		環境基準適合率		環境基準適合項目の 割合	94.6%	令和6年 3月	95.0% 以上	目標年次には、95.0%以上に達 することを目標とした。
		公害苦情への 対応件数		苦情受付、現地調査、 事業所への指導まで 行った件数	79件	令和6年 3月	75件	目標年次には、現状値から5% 程度減少していることを目標とし た。
		下水道出前授業の 実施校数		小学校4年生を対象と した下水道の仕組みや 役割についての授業の 実施校数	20校	令和6年 3月	毎年度 20校	毎年度、市内全ての公立・私立 小学校で実施することを目指す。
7-2-1	地域の特性を 生かした街が 形成されて いる	良好な街並みが形成 されていると思う市 民の割合		市政世論調査で測定	43.6%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。

めざす姿		成果指標	算出方法等	現状値	現状値の 時点	目標値 2029年 (R11)	目標値の 設定理由
7-2-1	地域の特性を生かした街が形成されている	地区計画、建築協定、地区街づくり協定などルール化された面積(累計)	地区計画、建築協定、地区街づくり協定などルール化された面積の累計	138.8ha	令和6年 4月	154.2ha	現状値に対し、目標年次までに誘導すべきと考える地区の区域面積を加えた目標とした。
		中央林間駅、大和駅、高座渋谷駅の1日あたりの乗降客数の合計	小田急中央林間駅、東急中央林間駅、小田急大和駅、相鉄大和駅、高座渋谷駅の1日の平均乗降客数の合計	426,447人	令和6年 3月	432,844人	総合計画の人口推計における令和5年度から11年度の増加率(約1.5%)を踏まえ、目標年次には、現状値から1.5%程度増加していることを目標とした。
		北・中・南部地域の人口比率	北部： 公所、つきみ野、内山、中央林間、中央林間西、南林間、林間、下鶴間、鶴間、西鶴間 中部： 上草柳、桜森、深見西、深見東、深見上、深見下、深見台、大和東、大和南、中央、草柳、柳橋 南部： 福田、桜丘、上和田、上和田団地、代官、田中、中・下福田、渋谷、高等町、下和田、いちよう団地	北部： 48.6% 中部： 29.3% 南部： 22.1%	令和6年 10月	北部： 48.6% 中部： 29.3% 南部： 22.1%	現状値を維持することを目標とした。
7-2-2	気軽に移動できる環境が整っている	公共交通機関を利用しやすいと思う市民の割合	市政世論調査で測定	70.6%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		徒歩や自転車、車でも快適に移動できると思う市民の割合	市政世論調査で測定	63.0%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		都市計画道路の整備率	整備済延長 / 都市計画道路延長 × 100	65.1%	令和6年 3月	65.5%	令和6年度時点で令和11年度末までに計画している都市計画道路の整備が全て終わることを目標とした。
		コミュニティバスの1日あたりの利用者数	のろっと、やまとん GOの年間利用者数の合計 / 運行日数	1,979人	令和6年 3月	2,009人	総合計画の人口推計における令和5年度から11年度の増加率(約1.5%)を踏まえ、目標年次には、現状値から1.5%程度増加していることを目標とした。
		放置自転車等の移動台数(自転車等放置禁止区域)	自転車等放置禁止区域に放置された自転車の移動台数	420台	令和6年 3月	252台	目標年次には、現状値から40%減少していることを目標とした。
7-2-3	公園を快適に利用している	公園を快適に利用できると思う市民の割合	市政世論調査で測定	54.3%	令和6年 9月	向上	継続的な向上を目指す。
		市民1人あたりの都市公園面積	都市公園の総面積 / 人口	3.39㎡	令和6年 3月	4.00㎡以上	目標年次には、大和市緑の基本計画における目標値(令和10年度で4.00㎡)以上に達することを目標とした。